



〒174-0045 東京都板橋区西台 1-27-10 電話：03-5920-1122、Fax：03-5945-4152

HP：<http://shouhaku.jp/>E-mail：info@shouhaku.jp

編集・発行 西台こども館

□□ 卒園を祝う □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

今年度西台こども館を卒園するこどもたちが 3 名います。7 年前の平成 20 年 3 月に西台こども館が開園されてまもなく入園したこどもたちです。在園期間約 6 年から 7 年であり、まさに西台こども館の歴史をつくってきた 3 名です。当時まだあどけなさのこるこどもたちでしたが立派に成長しました。進学者は 2 名、就職者は 1 名です。進学する 2 名は隣接する自立支援宿舎に入居します。就職する 1 名は会社の寮に入り自立していきます。

創立者の新井理事長は、以前より「こどもたちの実家をつくりたい、園がこどもたちの実家になるよう支援していくことが必要である」と話されています。昨年出された東京都児童福祉審議会提言〈社会的養護の新たな展開にむけて(家庭的養護・地域化の推進と切れ目ない支援)〉でも「いつでも相談できるという実家的な機能を果たすことが重要である」と提言されています。

なんでも相談できる場所、安心できる場所、暖かくつつみこんでくれる場所、こどもたちにとってのそんな実家でありたいと願っています。

園長 齋藤 学



養育力の向上にとりくんでいます

外部研修について：25年度は 99件 述べ 124名の職員が、さらに26年度はまだ途中ですが、2月末現在で 83件 述べ 103名の職員が外部研修に参加させていただきました。そのほか内部研修も研修体系に基づき積極的に行っています。職員は学び、謙虚な姿勢で養育に取り組んでいます。

園内でとりくんでいる様々なとりくみ



CAP (Child Assault Prevention)

キャップと呼んでいます。毎年NPO法人青い空の皆様にご協力いただき、こどもたち及び職員が学んでいます。CAPとはこどもへの暴力の防止の略で、こども自身がイジメ、痴漢、誘拐、性暴力といった様々な暴力から自分を守る力をもっていることに気づき、その力を発揮できるようにサポートすることを目的としたプログラムです。CAPの3つの柱は□エンパワメント□人権意識□コミュニティです。

CARE (Child-Adult Relationship Enhancement)

「ケア」は、こどもと大人との間に、安心感や自尊心を育むような温かい関係を作る事を目的とした心理的教育的介入プログラムです。こどもの適切な言葉を繰り返したり、具体的に褒めたりすることで、①「大人との絆を深めるスキル」(こどもの適切な言葉を繰り返す・こどもの行動を言葉にする・具体的にほめる)②「わかりやすい指示を出すスキル」(・直接的、肯定的・1つだけ・明確に・年齢にふさわしく・丁寧に・中立・指示と指示の間は5秒間待つ等)の2つから成り立っています。こどもとの絆を深めるために当園でも導入しています。

セカンドステップ



こどもが加害者にならないためのプログラムです。
キレナイこどもを育てよう を合言葉に、こどもが幼児期に集団の中で社会的スキルを身につけ、さまざまな場面で自分の感情を言葉で表現し、対人関係や問題点を解決する能力と怒りや衝動をコントロールできるようにレッスンが計画されています。「セカンドステップ」を学んだこどもは言動に攻撃性が減少し、より良い人間関係を持つようになるといわれています。

*児童対応職員21名中18名が受講終了しています。他に心理、自立COを含め20名がNPO法人日本こどものための委員会研修会を受講しました。

コモンセンスペアレンティング (Comon Sense Perenting)

ペアレンティングトレーニングのプログラムです。暴力や暴言を使わずにこどもを育てる技術を、親に伝えることで、虐待の予防や回復を目指すものです。行動療法の理論背景をもとに、こどもの問題行動を減らし、望ましい行動を効果的にしつけられるスキルの体得を経験的に学習するプログラムです。ビデオや漫画といった視覚教材を用いたモデリングとロールプレイを重視しており、こどもの問題行動に教育的に対処できるしつけのスキルを身につけることから虐待の予防を図ります。

- ① わかりやすいコミュニケーション
- ② 良い結果 悪い結果
- ③ 効果的なほめ方
- ④ 予防的教育法
- ⑤ 問題行動をただす教育法
- ⑥ 自分自身をコントロールする教育法



*児童対応職員21名中18名が受講終了しています。他に心理、FSW、自立CO、園長を含め22名がトレーナー資格を取得しています。

「もみじ」ユニットのお正月の様子

もみじの年末の様子は、恒例の紅白歌合戦を見て踊ったり（今年はAKBではなく三代目J soul brothersだったかな！？（笑））、年越しそばやみかんを食べて過ごしました。中学生は年越し瞬間に職員と一緒にジャンプをして年越し・新年を祝いました。

お正月には、野菜をこどもたちと一緒にかたどって鍋料理を作り座卓でみんなで食べました。みんなで鍋を作って囲むと美味しいものです。DVDをレンタルして借りて来て鑑賞したり、おやつとしてアイスプレートを作って食べました。

1月3日にはイオンの映画館に行って、好きな映画を見たり、お年玉で好きな玩具や本などを買って、ファミリーレストランで夕食を食べて帰ってきました。その日は、おもちゃやぬいぐるみや本などを抱えて布団で寝ていました♪（堀欠）

グループホーム「けやき」のお正月の様子

けやきがスタートして初めてののお正月でした。大晦日の遅い時間まで、元旦早朝からアルバイトの高校生がおり、慌ただしく新年を迎えたように思います。

こどもたちは高校生、中学生の大きなお兄さんばかりなので、除夜の鐘が鳴り終わってからもテレビでダウンタウンを観て、大笑いし、ワイワイと楽しく過ごしておりました。

けやきは大きなこどもが多いので、とにかくご飯をよく食べます。夕飯は職員お手製のすき焼き、そしてみんなで新年の挨拶をした後、近所のスーパーで買ってきた天ぷらを乗せた年越し蕎麦をモリモリと食べておりました。

昨年6月に開設し、新しい生活の場を作っていくのに、こどもたちも職員も一緒に試行錯誤しながらやってきました。今年も色々と問題にぶつかることもあると思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

（太田）

行事の紹介

平成 26 年 9 月 23 日 西台こども館まつり

西台こども館まつりは和太鼓（吉祥天鳳みのり太鼓）の生演奏で始まりました。贅沢なオープニングです。子ども達は綿あめ、ポップコーン、フランクフルト、焼きそばなどの模擬店でお祭り気分を少し味わうことができたかなという印象です。又、お財布にやさしいバザーで雑貨、玩具、文具などの買い物を充分楽しんだ子どもも多かったようです。近隣の方々の来訪もありゲームをしたり、手作りブレスレッドコーナーで作品を作り身につけて帰る姿を嬉しく見送りました。午後からはネリマックスのヒーローショーが行われ、悪役の登場に泣き出す子どもや、ネリマックスを歓声で迎えて応援する子ども達などで大盛り上がりでした。今年も子ども達は練馬のヒーローの参上を心待ちにしていると思います。（松山）



平成 26 年 12 月 25 日 クリスマス会

昨年の 12 月 25 日、西台こども館でクリスマス会を開催しました。

当日はたくさんのお客様をお迎えし、とても華やかなクリスマス会を催すことが出来ました。

子どもたちは、練習を重ねた自慢の出し物を披露しました。ダンスや歌に加え、ピアノなどを頑張りました。普段の生活からは想像もつかないような子どもたちの姿を垣間見ることが出来ました。その姿に子どもたちはもちろんのこと、大人も大いに楽しむことが出来ました。

クリスマスと言えばプレゼントを思い浮かべる方も多いと思いますが、クリスマス会では子どもたちが生活している各お部屋にプレゼントを渡しました。

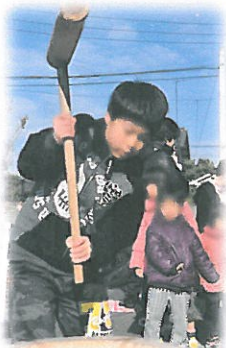
クリスマス会が終わった後は、プレゼントの玩具で遊んだ子どもたちに笑顔が溢れていました。（一ノ瀬）



12月28日 おもちつき

杵と臼でお餅をついて、あんこ、きなこ、からみ、いそべにして食べました。

職員の義娘さんで米国の教会を中心に音楽活動をされている、セレナ・木村・オラダボさんが素敵な歌を披露してくれました。こどもたちとアカペラで歌ったり、踊ったり楽しい時間を過ごすことができました。



「だてまきづくり」

おしょうがつに食べるだてまきを、えいようしさんにおしえてもらいつくりました。つくるのはむずかしかったけど、たのしかったです。食べたらいしかったです。またやりたいです。

小学低学年 SR



平成27年12月7日 七五三お祝い

今年度の七五三は、5歳の男の子2名、3歳の女の子1名のお祝いをしました。3人とも初めての着物ということもあり着付けの際には緊張した表情を見せていましたが、着付けボランティアの方にかっこよく、可愛く着物を着せてもらいとても嬉しそうにしていました。しかし慣れない草履で歩くのには苦戦していました・・・。

着付けを終え、写真ボランティアの方に写真撮影してもらいました。帽子や毬、刀等の小物を使い、かっこいい写真を撮ってもらいました。こどもたちも写真に写っている自分の姿を見て喜んでいました。その後は近くの神社へお参りに。

夕食はお祝いのメニューを食べ、皆にお祝いの言葉を貰ったりととても楽しい一日になりました。(鈴木)

地域のお祭にも
参加しました。



美しい空

お習字を教えてください

「かきぞめ」

わたしは、ことし書初めて銀賞をとりました。いままで金賞や銀賞をとったことがなくて、自分はとれないと思っていたけど、たかぎさんがおしゅうじを教えてくれたおかげで、銀賞をとることができました。ありがとうございます。おしゅうじを習いはじめて一年。もっとたくさん書いてきれいな文字を書きたいので、お習字をもっとたくさんおしえてください。 小学高学年NM



お習字の高木先生

ボランティアのお問い合わせは、津田 川口 鈴木までお願いします

「まつ」ユニットの正月の様子

年末からインフルエンザが猛威を振るい、波乱の年越しになった「まつ」ですが、大みそかには少し落ち着きお出かけをする事が出来ました。子どもたちと一緒に大量のおやつを買い、普段あまり食べないカップラーメンなんかも買ったりすると、年越し気分が出て来たようで「ずっと起きてていいの?」「こんなにおやつ食べられるかな?」などうれしそうに言っていました。

おいしい晩御飯もたくさん食べ、苦しそうにしながらもおやつやミカンを食べる姿を見て、自分も小さい頃はこんなバカな事してたなあなどと思いつつも「そんな無理して食べないの!」と注意してしまい、来年の抱負は「あまり子どもを叱らないこと」と決めたのでした。(西松)



「いちょう」ユニットのお正月の様子

いちょうユニットは、6名の子どもたちがこども館で年末年始を過ごしました。毎年、同じような過ごし方になってしまっていますが、幼児はいつものように眠くなってしまい早く寝てしまったり、中学生や高校生は夜更かしができるので夜遅くまでテレビを観て除夜の鐘をきいて過ごしていました。元旦は、ゆっくり起きてきてみんなでご飯をいただきます。調理職員に作っていただいたおせち料理を囲み、職員がひとつひとつおせちに込められた意味を教えながら食べました。

お正月は、子どもたちにとって大切な行事です。この時期だけは、宿題等に追われることなく伸び伸びと過ごしている印象です。また、一年の目標を立てるのにも良い機会です。中学生は今年目標に『受験合格』を掲げました。高校受験を控えています。今年立てた目標が無事に叶うことを願い、また職員としてもサポートしてあげられたらと考えております。(野呂)



「かしわ」ユニットのお正月の様子

12名ユニットから8名ユニットになって初めてのお正月。いつもより少しだけ静かなお正月でした。かしわのみんなは、おせち料理が大好き。大晦日にみんなで作った伊達巻をおいしくいただきました!個別外出では、科学技術館で普段できない体験をしたり、原宿ショッピングを満喫しました。お年玉を握りしめて、かつこいいおもちゃも買いました!そして、寒い冬はやっぱりお風呂!みんなで大きなお風呂に入るのも、お休み中の楽しみのひとつです。今年は、風邪やインフルエンザになる子も出ず、元気いっぱい、お腹いっぱいなかしわユニットでした!!(石川)

	3 未	年 少	年 中	年 長	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	計
男	1	1	2	2	3	3	2	0	1	0	2	1	1	1	2	2	24
女	1	1	1	2	0	2	0	1	2	0	2	2	1	0	0	1	16
計	2	2	3	4	3	5	2	1	3	0	4	3	2	1	2	3	40

西台こども館在籍職員一覧(平成27年3月1日現在)

【園長】齋藤 【事務長】竹田 【事務】粕谷
 【統括主任】津田(自立支援コーディネーター)
 【FSW】川口 【心理】田中



【ユニット担当】

「かしわ」石川・一ノ瀬・谷元

「もみじ」堀欠・吉江・渡部

「けやき(グループホーム)」太田・高橋・石井

「まつ」西松・大貫・飯尾・小松

「いちよう」野呂・富田・山野

【フリー】鈴木・松山・越・松田

* 育児休暇：森脇

【個別対応】木村

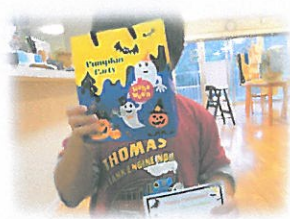
【栄養士】丸山

【調理】田島・高山・水殿

【専門機能強化】立澤(医師)、田村・内藤(治療指導員)

(アルバイト) 山口・多田

(嘱託医) 大山



ハロウィンのお菓子をもらって大喜びです。

今年の節分の「鬼」は迫力満点でした。



避難場所について

西台こども館では毎月災害を想定した避難訓練を行っています。避難が必要な災害がおきた場合には園の敷地内に一時避難をします。その後必要に応じて板橋区指定の避難場所である志村第五小学校（東京都板橋区西台3丁目38番23号）に避難します。志村第五小学校に被害が及んだ場合には広域避難場所（都営三田線高島平駅南側から都立赤塚公園付近）に避難します。



ありがとうございました（平成26年9月～平成27年2月）

《寄付金》

駒林素行、佐藤正昭、大前あつみ&サザンクロス、朝日税理士法人、牧孝芳、牧紀子、伊藤康治、新井隆司、相馬新一、(株)ラ・ホールディングス

《寄贈品》

毎日新聞生活報道部、(株)スタジオエヌ、(株)ヒト・コミュニケーションズ、木下和子、代、学校法人創志学園大橋博、東興工業(株)、(株)デルモンテ大阪支店、(株)フォーシーズ、越史郎、全国シャンメリー共同組合、楽天、カゴメ(株)、(株)チュチュアンナ、(株)プレナス、朝日税理士法人、古川貴子、桑野食品工業(株)、三菱東京UFJ銀行、伊藤康治、フィールドボス(テスト2号)、毎日新聞東京社会事業団、竹島久美子、となりのトトロ、一般社団法人東京馬主協会、東京善意銀行、安井豊明、湯本泰子、シダックス(株)、山田登、佐藤正昭、新井希衣子、阿部幸子、竹内弘、竹内冷子、竹内勇、内田かつこ、白石トリ、(株)リクルートライフスタイル、立澤亮、日本児童教育専門学校、まつば園、立澤岫子

《招待》

一般社団法人ACSY、東京都アミューズメント施設営業協会、NPO交通遺児を支援する会、劇団飛行船、タクシー協同組合板橋第一支部

(順不同・敬称略)

編集後記：米国の教育家であるドロシー・ロー・ノルトの詩「子は親の鏡」では「けなされて育つと、こどもは人をけなすようになる、とげとげした家庭で育つと、こどもは乱暴になる」とはじまる。「励ましてあげればこどもは自信を持つようになる、守ってあげれば強いこどもに育つ、和気あいあいとした家庭でそだてばこどもは、この世の中はいいところだと思えるようになる」としめくくられている。この詩には子育ての要諦が詰まっている。

様々な環境で生活していたこどもたちとあらためて園での生活をはじめるとき、子育ての具体的な養育技術が必要とされる。そして、詩「子は親の鏡」にあるようなこどもに対する養育者の言葉、態度、雰囲気がかどもたちを育てる。養育者のそれらが養育技術の基礎である。こどもは愛情ある大人に支えられ、教えられ、守られながら、そして無条件の愛情を栄養として成長していくのかもしれない。(齋藤)